

景気観測(LOBO)

«2024.4~6月»

令和6年度 第1四半期

日 立 商 工 会 議 所
情 報 化 委 員 会

I. 調査概要について

(1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製造業	25	20	80%
小売業	25	20	80%
建設業	25	21	84%
サービス業	25	21	84%
計	100	82	82%

(3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因 採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

(4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしよNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎LOBOとは「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

◎DI値(景気判断指数)について

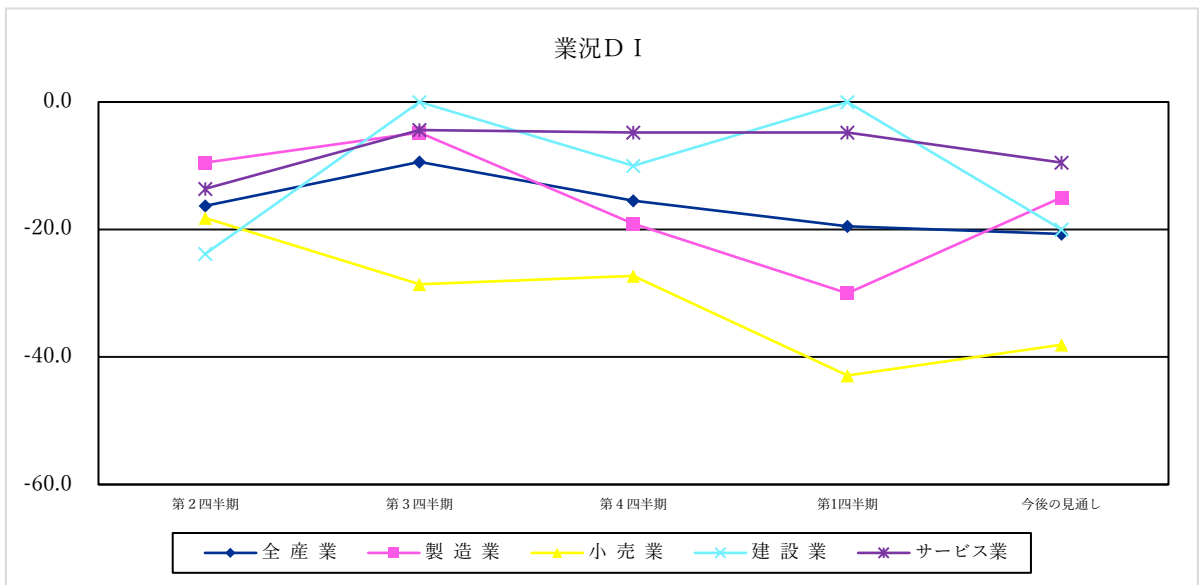
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりの意味する。
- ・DI=(増加・好転・不足等の回答割合)-(減少・悪化・過剰等の回答割合)

II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲19.5と前回調査時(▲15.5)より4.0ポイントの悪化。今後の見通しは▲20.7と今回比1.2ポイントの悪化が見込まれる。
- 製造業では、▲30.0と前回調査時(▲19.1)から10.9ポイントの悪化。今後の見通しは、▲15.0で今回比15.0ポイントの回復を見込む。
- 小売業では、▲42.9と前回調査時(▲27.3)より15.6ポイントの悪化。今後の見通しは▲38.1と今回比4.8ポイントの回復を見込む。
- 建設業では、0.0と前回調査時(▲10.0)より10.0ポイントの改善。今後の見通しは▲20.0と今回比▲20.0ポイントの悪化が見込まれる。
- サービス業では、▲4.8と前回調査時(▲4.8)と同ポイント。今後の見通しは▲9.5と今回比▲4.7ポイントの悪化が見込まれる。

(1)業況DIの推移とキーワード

	令和5年度			令和6年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 16.3	▲ 9.4	▲ 15.5	▲ 19.5	▲ 20.7
製造業	▲ 9.5	▲ 4.8	▲ 19.1	▲ 30.0	▲ 15.0
小売業	▲ 18.2	▲ 28.6	▲ 27.3	▲ 42.9	▲ 38.1
建設業	▲ 23.8	0.0	▲ 10.0	0.0	▲ 20.0
サービス業	▲ 13.6	▲ 4.4	▲ 4.8	▲ 4.8	▲ 9.5



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	コスト負担増	受注量減少	価格転嫁
小売業	原材料高騰	価格改定	イベント特需
建設業	技術者不足	資材高騰	公共工事減少
サービス業	材料・燃料高騰	コロナ第9波	消費者の節約志向

《全国との比較》

	令和6年度第1四半期		今後の見通し(7月~9月)	
	全国(6月)	日立	全国	日立
全産業	▲ 16.2	▲ 19.5	▲ 16.0	▲ 20.7
製造業	▲ 17.6	▲ 30.0	▲ 17.8	▲ 15.0
小売業	▲ 22.2	▲ 42.9	▲ 21.2	▲ 38.1
建設業	▲ 18.7	0.0	▲ 16.2	▲ 20.0
サービス業	▲ 6.0	▲ 4.8	▲ 4.8	▲ 9.5

(2)売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移(DI値)

(売上高)

	令和5年度			令和6年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	7.0	5.9	▲ 6.0	▲ 11.0	0.0
製造業	23.8	9.5	▲ 14.3	0.0	▲ 5.0
小売業	▲ 4.5	▲ 14.3	0.0	▲ 23.8	4.8
建設業	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 5.0	0.0
サービス業	9.1	26.1	▲ 4.8	▲ 14.3	0.0

(採算)

	令和5年度			令和6年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 22.1	▲ 12.9	▲ 14.3	▲ 20.7	▲ 14.8
製造業	▲ 9.5	▲ 9.5	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 10.0
小売業	▲ 31.8	▲ 23.8	▲ 27.3	▲ 38.1	▲ 28.6
建設業	▲ 28.6	▲ 20.0	10.0	▲ 5.0	0.0
サービス業	▲ 18.2	0.0	▲ 4.8	▲ 19.0	▲ 19.0

(仕入単価)

	令和5年度			令和6年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 72.1	▲ 65.9	▲ 71.4	▲ 76.8	▲ 58.5
製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 57.1	▲ 75.0	▲ 35.0
小売業	▲ 72.7	▲ 66.7	▲ 81.8	▲ 81.0	▲ 76.2
建設業	▲ 85.7	▲ 70.0	▲ 75.0	▲ 80.0	▲ 60.0
サービス業	▲ 63.6	▲ 60.9	▲ 71.4	▲ 71.4	▲ 61.9

(販売単価)

	令和5年度			令和6年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	38.4	31.8	36.9	40.2	23.2
製造業	33.3	28.6	23.8	55.0	25.0
小売業	54.6	57.1	68.2	42.9	42.9
建設業	42.9	30.0	35.0	25.0	30.0
サービス業	22.7	13.0	19.0	38.1	19.0

(従業員数)

	令和5年度			令和6年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	25.6	30.6	20.2	19.5	23.2
製造業	14.3	19.0	9.5	5.0	20.0
小売業	27.3	38.1	22.7	19.0	14.3
建設業	52.4	35.0	15.0	35.0	45.0
サービス業	9.1	30.4	33.3	19.0	14.3

(資金繰り)

	令和5年度			令和6年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7~9月)
全産業	▲ 9.3	▲ 3.5	▲ 11.9	▲ 13.4	▲ 11.0
製造業	4.8	4.8	0.0	▲ 20.0	▲ 10.0
小売業	▲ 27.3	▲ 19.0	▲ 18.2	▲ 23.8	▲ 23.8
建設業	▲ 4.8	5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	0.0
サービス業	▲ 9.1	▲ 4.3	▲ 19.0	▲ 4.8	▲ 9.5

(3)業種別概況

業種	概況
製造業	<p>業況感は悪化しているが、売上・採算が回復している。原材料等の上昇が続いているが、販売価格への転嫁が出来ている様子が伺える。既存取引先からの受注量減少の報告も見られた。</p> <p>個別では</p> <p>「物流のマイナス影響に関して部分的に関係する可能性はあるが、今のところ巷間で取り沙汰されているような影響は少ないと思われる。むしろ円安に起因した資材類の高騰やエネルギー問題の方が重視されている。」(組合)</p> <p>「建設機械部品の受注減少。」(電気機械器具製造業)</p> <p>「輸送コストの上昇は避けられないが、納期への影響は大きな損失となるため注視している。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「地元取引先からの受注量減少。物価上昇分の価格転嫁が進まない。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「弊社受注の交通インフラ関連は、底堅い需要に支えられ比較的安定している。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「自動車関連受注が中心であったが、それ以外への営業により新規受注獲得。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「今年度新卒入社したエンジニアの売上が稼働し始めたため売上増加も、新規大型プロジェクトの引合いが無いため、当面は現状維持となる見込み。」(情報サービス業)</p>

	<p>などの報告があった。</p>
小 売 業	<p>業況感、売上、採算いずれも悪化しており、先行きは不安視。原材料・光熱費等の上昇が止まらず、商品の値上げで対応するも不安であるとの報告もある。</p> <p>個別では</p> <p>「客数に大きな変化はないが、昨年一部の商品を値上げした影響か売上微増。人流はかなり戻ってきている。祭りなどのイベントが復活してくれば、売上増加が見込まれる。恐る恐るだが自粛ムードは消えてきた。しかしながら自粛中に開催を見送った行事は必ずしも元に戻ることはなく、主催者の意向で見送られることもあると聞く。また、猛暑など気候の問題や、円安による物価の不安定感はいしばらく影響が出そうである。」(食品製造小売業)</p> <p>「実質賃金の低下・物価上昇・売上減少(夏の暑さの影響があると思われる)・仕入原価の上昇(チョコレートに関して、物によっては6~9倍の価格になっている話を材料メーカーより聞いており、早ければ年内に2回値上げがある模様)。年々上がる社会保険料、水道光熱費の影響。洋菓子専門店の倒産が増えるのではとの話もある。」(菓子製造小売業)</p> <p>「部活動の地域移行が少しずつ動き出し、地域スポーツクラブからの発注が出て来始めた。」(スポーツ用品小売業)</p> <p>「最低賃金の改定により県内も時給1,000円以上になる可能性が高く、大きな経費負担になると思われる。」(食品スーパー)</p> <p>「2024年問題の影響を受け、製品の延着傾向が浮き彫りになってきた。市況が常時変動する中で、最安値を狙った注文から納品までのリードタイム短縮が課題となっている。」(燃料小売業)</p> <p>「お盆の前に一気に受注が入りそうな状況なので忙しくなるのだが、商品仕入が難しくなってきている。受注と仕入のバランスをとるのが大変。」(カー用品小売業)</p> <p>「電気、ガス、水道代等の光熱費が高くなっていて、利益を圧迫している店が多い。」(コンビニエンスストア)</p> <p>「年度中間にあたり商品の流通が落ち着いている。学校関係や企業の長期休暇に伴い、例年に比べ売上減少が見込まれる。」(事務機器販売業)</p> <p>「施設関連売上は変わらず、飲食店関連が維持の店舗と、微減の店舗とある。7月より卸販売の価格改訂を行ったので売上は若干上がる見通し。関東圏食肉業界においての、今1番のトピックは豚肉相場の高騰。国内豚熱や、輸入物の入荷不安定による高騰により、20数年のキャリアで経験した事の無い高騰振りとなっている。毎年この時期は高値水準だが、例年通り給食需要の無くなる7月下旬にどこまで値が下がる(戻る)かが一つのポイントになると考えられる。」(食肉販売業)</p> <p>「まだまだ自動車業界は車両が入らない。中古車の市場価格が高い。」(自動車販売業)</p> <p>などの報告があった。</p>
建 設 業	<p>業況感回復も、売上は横ばい、採算は多少悪化。公共工事減少の報告が見られるが、入札数に変化なしの報告もあり、業種によって異なると考えられる。人材・技術者不足の報告が多数あった。</p>

	<p>個別では、</p> <p>「施工高が上がらない。施工が軌道に乗り始めるため、公共土木工事の発注が質量ともに本格化する。但し、2024 問題による工期延伸と人件費増、建設資材や物流費の高騰が予想され、コストアップが懸念される。」(総合建設業)</p> <p>「業者不足による発注量の増加。部材関係の値上げによる、見積止まりの増加。人手不足ではあるが、人件費の捻出が困難な状況。」(一般住宅建築業)</p> <p>「人件費や原材料、資材価格が徐々に上がっており、価格転嫁もままならず、売上が上がっても利益に繋がっていかない厳しさがある。」(設備工事業)</p> <p>「中途採用に関して、若干ではあるが技術者の採用が増えてきている。新卒採用は非常に厳しい状況が続いており、ここ数年では一番苦戦している。公共工事の入札案件数は変動がないと感じるが、入札に参加したくても技術者不足で参加を見送るケースもあり、中小企業にとって技術者の確保は重要事項だと考えている。」(設備工事業)</p> <p>「営業努力。地域の人口減少の影響が大きい。」(建築材料卸売業)</p> <p>などの報告があった。</p>
サービス業	<p>業況感は横ばいであるが、売上・採算は悪化している。原材料や燃料価格等の更なる上昇により、価格転嫁してはいるものの追い付かず、厳しい状況が続いているとう報告があった。</p> <p>個別では、</p> <p>「トラック運転手及び機械作業員の労働時間規制の「24年問題」への対応。待機時間などを含めた適正な料金収受及び、協力会社への還元。茨城県(県央、北部)への進出企業の動向。」(物流業)</p> <p>「働き方改革によるトラック運賃、工事単価の値上げが、一部で実施できていなく、十分な単価まで乗っていない。」(物流業)</p> <p>「コロナ第9波が今後どのように影響してくるか心配している。」(ホテル業)</p> <p>「物価上昇、特に食品の上昇により生活費の見直しや買い控えが起きているように見え、来店サイクルが伸びている。」(理容業)</p> <p>などの報告があった。</p>